

子どもたちを世界に羽ばたく人材に!!
グローバル化の時代に応える教育力を
ともに大学院で学びましょう。

グローバル化 推進教育 リーダーコース

急速に進む国際化や社会の多様化により、文化や言語の異なる背景を持つ子どもたちと共に学ぶ機会が学校現場でも増えています。こうした教育環境の変化に対応できる教員には、地球規模の課題を理解し、地域と協働して解決を目指す力が求められています。

本コースでは、SDGs(持続可能な開発目標)の達成を視野に、ESD(持続可能な開発のための教育)やGCED(地球市民教育)の視点を取り入れたカリキュラムを通して、国際理解力・協働力・批判的思考力を備えた教育リーダーを育成します。

グローバル化の時代に応える教育力を備えた教員が、いま求められています。

■ 特色ある授業科目 ■

- <世界の教育> 世界各国の教育に精通する専門家から、その国の教育の実情や課題について学びます。
- <国際理解教育> ESD(持続可能な開発のための教育)やGCED(地球市民教育)の視点も取り入れながら、多文化共生や国際理解について実践的に学びます。
- <海外フィールドワーク> 現地の学校を訪問し、授業を視察したり聞き取りを行ったりします。異なる教育文化を体験することで、日本の教育をあらためて見つめ直す機会にもなります。
- <国際情報分析(探究演習)> 国際的なテーマをもとに情報を集め、探究を通して論理的思考力やグローバルな視点を育てます。
- <グローバル教育実践報告と研究手法> 自分の実践をふりかえりながら、教育研究の方法を学び、研究としてまとめる力を身に付けます。
- <実用外国語演習> 英語でのやりとりを通して、日常でも使える実践的なコミュニケーション力を育てます。
- <外国語による表現法> 自分の研究を英語で発表したり、論文として書いたりする力を伸ばします。研究の成果を世界に発信する力を育てます。

働きながら、世界のどこからでも学べる大学院

フレックスクラスでは遠隔地の方もオンラインで受講可能。
地球のどこにいても、学びの扉は開いています。

科目区分	授業科目の領域	単位数
共通基礎科目	教員、教育専門職として必要な基礎的領域	10～
専門科目	グローバル基礎領域	6
	グローバル授業実践領域	4
	グローバル・フィールドワーク領域	4
	グローバル教育実践課題領域	4
実習科目		10
合計		46

グローバル基礎領域	◆国際理解教育Ⅰ(基礎) ◆国際理解教育Ⅱ(応用と実践) ◆世界の教育
グローバル授業実践領域	◆実用外国語演習 ◆外国語による表現法 ◆グローバル教育実践報告と研究手法 ◆国際情報分析(探究演習)
グローバル・フィールドワーク領域	◆グローバル・フィールドワークⅠ(海外) ◆グローバル・フィールドワークⅡ(国内)
グローバル教育実践課題領域	◆グローバル教育実践課題研究

実習科目	グローバル教育実践	◆学校教育基盤実習 ◆グローバル教育実践実習 ◆グローバル教育開発実習
------	-----------	-------------------------------------

共通基礎科目

- ◆特色あるカリキュラムづくりの理論と実際
- ◆教育課程における各教科の特性と課題
- ◆STEAM教育とICT活用
- ◆授業におけるICT活用
- ◆教育実践のためのデータサイエンス
- ◆実践的な指導方法に関する理論と実際
- ◆教育実践の省察と分析
- ◆授業における評価の基準作成理論と学力評価法
- ◆初等国語科教材研究・授業づくり
- ◆初等英語科教材研究・授業づくり

専門科目(他コース)

- ◆カリキュラム・マネジメントと学校のオープン・イノベーション
- ◆総合的な学習と特別活動のデザイン
- ◆総合学習の理論構築と実践力形成
- ◆外国人児童生徒の指導と多文化共生教育
- ◆第二言語習得と外国語学習
- ◆学級づくりと教育的関係の構築
- ◆障害のある児童への指導と支援方法

他

これまでの「教育実践報告書」のテーマ(一部抜粋)

- ◆高等学校外国語科でのPBLによる国際理解教育の授業デザインと評価
ー歴史軸×世界軸による地域探究学習の実践ー
- ◆国際理解教育を背景とした小学校道徳科授業実践 ーグローバル人材の育成を目指してー
- ◆沖縄県立高校における地域協働型探究学習のフレームワークの構築
ー「高校魅力化」の事例を手がかりとした実践と検証ー
- ◆「グローバル教育」と「歴史総合」を横断させた授業実践の成果と評価
ー高等学校社会科におけるグローバル人材育成を目指してー
- ◆「持続可能な開発のための教育(ESD)」の推進に資する授業実践及び学習効果の検証
ー幅広い層の高等学校でのESD実践を目指してー
- ◆日本の初等中等教育の国際教育の推進に資する教員研修の開発および効果検証
ー参加型学習と講義を組み合わせた研修の実践を通してー
- ◆高校生のウェルビーイングを高めるための考察
ー長野県・モロッコ・フィンランドの高校生への青年用適応感尺度と主観的幸福感尺度を用いた調査及び相関分析からー

Q & A

Q1. 英語力が必要ですか？

- A. 英語の能力は問いません。入学後、「実用外国語演習」等の授業において、学生のレベルに応じた英語指導を行います。

Q2. 英語の教員対象ですか？

- A. 教科・校種は問いません。国際教育やグローバル教育に携わりたいと考えるすべての先生方、事務職の方、学部卒業後さらに深い研究・実践を追求する方等が対象です。

Q3. どのように学びますか？

- A. 講義・演習などの座学とフィールドワーク・実習を通して、理論と実践の融合を目指します。専任教員に加えて、当該分野の専門家・実践者を講師として招き、最新かつ高度な専門知識・実践力が身に付く多彩な授業科目が設定されています。対面授業に加えて、オンラインで受講する科目もあります。

Q4. どのような資格が取得可能ですか？

- A. 教職大学院修了者には、専門職学位「教職修士(専門職)」が授与されます。また、専修免許状が取得できるよう、授業科目を開設しています。

Q5. 海外留学できますか？

- A. 授業の一環で海外フィールドワークを実施します(「グローバル・フィールドワークⅠ(海外)」)。対象国・地域の小・中・高校を視察したり、教育機関を訪問し聞き取り調査を行ったりします。他に長・短期の留学も可能です。

Q6. 博士課程に進むことはできますか？

- A. よりアカデミックな研究手法や研究成果発表のスキル等、研究に関する基盤的な力量を形成し、博士課程に進むための準備ができるよう「研究力向上特別プログラム」が設置されています。

本コース授業の様子



▲「国際理解教育Ⅱ」(応用と実践)



▲「外国語による表現法」



▲「グローバル・フィールドワークⅠ(海外)」
カンボジア視察(令和6年度実施)

■入学者選抜関係日程: 〔8月選抜〕出願期間:令和7年 7月 2日(水)～令和7年 7月 9日(水)【必着】
〔11月選抜〕出願期間:令和7年10月 1日(水)～令和7年10月 8日(水)【必着】
〔2月選抜〕出願期間:令和8年 1月22日(木)～令和8年 1月27日(火)【必着】

試験日:令和7年 8月24日(日)
試験日:令和7年11月15日(土)
試験日:令和8年 2月28日(土)